

子どもの安心・安全を守る活動

子どもの安心・安全な環境づくりのためには、「子どもが自分自身を守る力を高めること」と「地域の見守り力を高めること」の両輪が必要です。

専門家とも連携し、地域で活動する方々が直接指導できる教育プログラムの開発や、活動する方々のサポートに取り組んでいます。



⇒ 教育プログラムの開発・普及

防災

保育園・幼稚園向け



防災教育紙芝居「じしんのときのおやくそく」
全国の保育園・幼稚園配布数のべ約**10,500園**※

防犯

小学校
低学年向け



子どもの安全・安心ハンドブックと安全教室実施パッケージ
全国の小学校配布数のべ約**20.9万部**※

ネット



初めてのスマホ安心ガイドブックと安全教室実施パッケージ
全国の小学校配布数のべ約**23.1万部**※

小学校 中・高学年向け



ネットかいてきコミュニケーション教室
演劇手法を取り入れた体験型授業

※配布数はすべて2020年3月時点

2020年度は

より多くの方に活用いただけるよう、普及拡大を目指します。また、学校現場以外にも、簡単に安心して安全教室が実施いただけるような施策も検討していきます。

経済的困難を抱える子どもの学び支援

日本において深刻化する社会課題である「子どもの貧困」に対する取り組み。知見あるセクターと協業して、助成団体同士のノウハウ共有やネット

ワーク化から見えた団体共通の課題解決のモデルづくりに取り組んでいます。



⇒ 支援人材の育成

ユースソーシャルワークみやぎ

人材育成計画の立案・実施
コミュニティ創出

連携

公益財団法人 ベネッセこども基金

ノウハウを全国の団体へ共有

地域の自律的な人材育成支援に必要なプログラムや人脈を獲得するための共同事業の最終年度。他団体への共有ができる形で知見やノウハウがアウトプットできる形に総括を実施。

⇒ 学びの質向上

キッズドア

Learning For All

連携

公益財団法人 ベネッセこども基金

・子どもの課題に沿った独自教材開発を支援
・学習支援現場でのトライアルや検証

先進的な団体と連携して、現場の課題解決モデルの検証や独自教材の開発を支援。コンテンツ完成後は、全国の他団体への現場に普及予定。

⇒ 支援現場の課題の社会発信

公益財団法人
ベネッセこども基金

社会的な議論環境づくり



子ども支援の現場や担い手が抱える課題の現状調査を実施。エビデンスをもとに課題提起し社会全体の理解と議論環境をつくる試み。

2020年度は

継続案件は続けながら、団体共通の課題解決へのベネッセこども基金の効果的な関わり方やテーマそのものを模索していきます。



病気・障がいを抱える子どもの学び支援

重い病気や障がいによって、学びに対するサポートを必要としている子どもとその保護者に対して、病院・学校・活動団体や専門家等と連携し、学びのモデルづくりや情報提供などを行っています。

⇒ 院内学級での学び支援プロジェクト



特別支援学校・校長会での成果発表など、社会発信も!

東京都内の特別支援学校4校と連携し、分身ロボットOriHimeを活用した学び支援プロジェクト



⇒ 発達障がいのある子どもと保護者の学び支援

情報提供による支援



発達障がい支援サイトエール&リンク



子ども向け支援



発達障がい支援ワークショップ「音と光の動物園」

保護者向け支援



自分を知り、やさしい子育てを実践するためのプログラムを開催

2020年度は

これまでの取り組みは引き続き必要な家庭に届けつつ、その先のニーズを見極め、社会に必要な新たな仕組みづくりに着手していきます。



よりよい社会づくりにつながる学び支援

“ソーシャルリーダーシップ”=「地域やコミュニティに主体的に関わり、社会をよりよくしていく一人としての役割を果たすことができる力」であり、未来を生きる子どもたち全員に必要な能力であると定義。先進的な取り組みがある団体と連携しながら、よりよい社会をつくる子どもたちを育てていきます。

⇒ 親子でチャレンジ国際理解！ちびっこおえかきコンテスト



2019年度結果
応募数:1,949作品
参加園:115園
感染症対策のため表彰式は中止

認定NPO法人グッドネーバース・ジャパンと共催で実施している、就学前の子どもたちが保護者と一緒に発達途上国の問題について学ぶ教育プログラム。

⇒ 国際パラリンピック委員会公認教材『I'mPOSSIBLE』日本版



国際パラリンピック委員会公認教材『I'mPOSSIBLE』日本版全国の小中高特別支援学校など約36,000校に配布

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会/日本財団パラリンピックサポートセンターと連携して、共生社会への気づきを子どもたちに促す教材を開発。2020年6月、東京2020大会に向けた全ユニット完成。

⇒ 高校生英語ディベート世界大会 (WSDC)



5th Best EFLとして初受賞の快挙を達成!

▲ 2019年度日本代表団のみなさん

世界大会は2019年7月24日～8月2日にタイのバンコクで開催

一般社団法人全国高校英語ディベート連盟(HEnDA)の国際委員会と共同で、日本代表チームの国際大会への派遣事業などを企画・運営。

2020年度は

継続案件は引き続き実施。パラリンピック教材の普及など、新しい関わり方や新テーマの取り組みも検討していきます。